

よくある ご相談と その対応

【事例⑥】 こだわりが強い。

NG対応

1、わがままな子と決めつける。

- ・一見 わがままのように思えるかもしれませんが、その子の特性から きていることかもしれませぬ。一旦 一つのことや考えに意識が集中してしまうと、他のことに目を向けられず気持ちの切り替えが うまく いかないことがあります。

2、叱って、こだわりを止めさせようとする。

- ・こだわりを強引に止めさせようすると、かえって混乱したり、激怒したり、パニックを起こしたりすることがあります。

GOOD対応

1、変更があることを知らせておく。

- ・物の配置、日課や手順などに こだわり、いつも一定であることに安心感を覚える子どもは、急な変化には大きな不安を感じ、受け入れるのが難しいようです。心の準備ができるように、できる限り早めに知らせておくとう受け入れやすいです。その時、口頭で伝えるだけでなく、視覚的な手掛かりを使ってあげて下さい。

2、受け入れやすい方法を考える。

- ・集団行動が苦手な子にとって、みんなと一緒に全ての行動を同じように こなすことに苦痛を感じるこゝがあるようです。部分的に参加するなど、その子が入りやすいところから少しずつ参加させてみて下さい。

3、その子に「お手本」になってもらう。

- ・ルールに こだわるあまり、クラスメイトに度を越えた注意をしてしまう子どもがいます。こゝういう子は、「ルールは良いが、マナーが悪い。」場合が多いです。確かにルールは守っていますが、注意の仕方が乱暴 過ぎるのです。「〇〇さんの言うことが正しいことは、先生は わかっています。だから、〇〇さんは みんなの お手本になって下さい。さすが、〇〇さん！ みんな、〇〇さんの真似をして下さいね。でも 〇〇さん、みんなへの注意は先生が しますからね。〇〇さんは、お手本を。先生が、注意ですからね。」こゝういふ感じで、ルールを守ろうこゝういふ子どもの気持ちも認めて伝えてあげて下さい。

4、こだわりを活かす活動に導く。

- ・日課に こだわりのある子がいれば、黒板に日課を書く係にするなど、その子の好きな活動を活かします。こゝういふ活動で、役立つ自分を感じられると自尊心も育ち、その活動を通して他の子と関わる きっかけになるこゝうあります。